



「水脈一内側に吹く風」(150 cm×180 cm×65 cm)

作者 菅野 泰史

*設置場所 せせらぎの径

*経歴

1971 宮城県生まれ
1994 東北生活文化大学 卒業
1997 愛知県立芸術大学大学院美術研究科 修了
1998 愛知県立芸術大学大学院研修科 修了
現在 愛知県立芸術大学非常勤講師

*コメント

私は、風や気、時間などのように目には見えがたいけれども感覚的には確実に認識できる自然の中の一流れ—の様な物の存在と、それらが作り出す様々な痕跡を手懸りにして、場やそのものの内側にすでに内包されている空間性を人間の意志や記憶、またその営みの蓄積と痕跡とを共に形体化し、それら全てのことを再認識することができるような空間を作り出したいと考えています。

このせせらぎの径は、従来川であった上に作られた人工的な遊歩道で一目ではその事実に気付くことは難しいほど美しく整備され、また町民に親しまれている。私は、この作品をこのせせらぎの径に置くことで、この場の記憶をあらためて顕在化し、目には見えないけれども確実に今でも存在し、流れ続けている川というものを再認識し、自然の豊かさとの調和した営みのあり方を考えるきっかけに出来上がればと思います。また、近隣に出来る駅からの人の流れとも絡み親しまれる空間が出来上がるのではないだろうかと考えています。